

## 創立 20 周年に際して(2017/02/03 品質会議で報告)

株式会社ビッドシステム 代表取締役 谷 径史

### **【ビッドシステムのお客様】**

ビッドシステムは、2017年2月3日で、創立20周年を迎えました。

ビッドシステム設立当時は、20年も会社が続くとは考えていませんでした。これまで当たり前にも会社経営を継続でき、それなりの社会的役割を果たすことができたことを喜ばしく思うとともに、ビッドシステムを支えて下さったお客様とパートを含め社員みなさんに感謝します。

20周年を迎えた今日、これまでのビッドシステムの歩みの特徴を振り返ってみたいと思います。

ビッドシステムは、独立系の小さい会社です。ですからできることには一定の制約がありました。ビッドシステムのお客様のひとつの特徴は、これから発展していこうとしていた「若い会社や組織」であったということです。そういうお客様と、一緒に考え苦勞しながらシステム化のお手伝いをしてきました。

やがて、そのお客様が発展し、より大規模になり、より多機能なシステムへ移行していくに伴い、当社の役割は他社に引き継がれていくこともありました。しかしそれでもビッドシステムは、これらのお客様にとって今なお、「最後の砦」として位置していることには違いありません。

またこのことは、お客様にとって、お客様の発展段階の一定期間でのお付き合いになる場合があることを示しており、ビッドシステムにとって、現在の現時点でのお客様に対するかかわりあいが大変重要であることを示しています。

### **【わが社を取り巻く環境】**

全般的には、アベノミクスをうけ、経済は発展してきていると言われています。

この発展の内容は、「日本の底力」によるものというより、為替によるものが大きいと言えますし、他方 ISO の観点からは、欧米をはじめアジアの諸国と比べても日本はますます停滞してきているともいわれています。

価値観は益々多様化し、「なんでもあり」の様相を呈しています。顧客ニーズもまた多様化し、変化し続け、それぞれの企業は、これらに如何に対応するかということで必死になっています。

こうした時代の変化をどのように捉えたらいいのか。

価値観や文化というものは、時代の要求を反映したものですが、その時代を構成する基本要素は、経済的基盤にあります。経済が発展し生活が豊かになれば、それに対応した価値観や文化が発展していきます。経済的な不均衡が大きくなれば、時代は混迷の度

合いを深め、それに対応した、あるいはそれを覆い隠すような様々な価値観や文化が生まれてきます。

とすれば、ビッドシステムとしては、このような現実の社会に対して、目先の動きに目を奪われるのではなく、時代の本質を見極め、この時代をいかにして前に押し進めるのかといった観点から、自らの企業使命を問い直すことが重要になってきます。

ビッドシステムの品質方針は、次の通りです。

**当社は、コンピュータソフトウェアが持っている可能性を、様々な企業の実情に合わせて活かし、その企業が持っている力を効果的に発揮し発展していくことのお手伝いをします。**

**当社は、来るべき時代に適合した新しい情報文化の創造を追求します。**

日本には、382万社の企業があります（「2017年版 中小企業白書概要」）。そのうち中小企業が380.9万社であり、中小企業のうち小規模事業者が325,2万社になります。

大企業では収益の改善が進んでいますが、他方、小規模事業者の中には潜在的な力を秘めながらも、IT投資に費用をなかなかかけられず、結果的に苦労を重ねているところも多いと思います。

中小企業や小規模事業所においてIT化の要求は、高齢化社会の到来に伴い、より深刻な問題となっていますし、近々の課題としても、80～90年代に導入されたシステムの置き換えが必要な現場が、山のように存在しています。

ここに私たちが事業を行うべきフィールドがあります。

ソフト会社にも様々な業態があります。大手と組んで大規模なシステムを構築しているところ、パッケージ開発で成果を上げているところ、OSをはじめ先端技術を開発しているところ、またゲームを開発しているところ…

ビッドシステムは、業務アプリケーションの開発を主に行っています。これは今日のコンピュータ技術を、現場に展開し適用し、現場をよりよくしていくための事業です。

日本の経済を下から支えている多くの中小企業、小規模事業所が一層IT化を進め、自らの個別事情に適合した使いやすいシステムを構築し、生産性を向上させることで、その力を大きく発展していくことになれば、時代はまた変わっていくと思います。

私たちは、コンピュータソフトウェアの開発会社であることによって、このために働くことができます。

また、システムの開発と運用を通して、お客様と一緒にになって様々な課題を解決していくなかで、お客様との新しい関係を育てていくことができれば、これほど喜ばしいことはありません。ここに新しいビジネスモデルのヒントがあるのではないかと考えます。

## 【2016年の成果】

昨年は、お客様との関係が多面的に向上しました。売上こそそれほど増大したわけではありませんでしたが、お客様との関係がコントロールでき、お客様にご迷惑をかけることも多くありませんでした。

新しいお客様も継続して増えています。これまでのお客様との関係も継続して良好です。

ソフトウェア群も一層充実しています。あらたに「生産管理」や「工程管理」のシステムも当社のラインアップに加わりました。「目標管理」「サロンシステム」「ホテルシステム」などのソフトウェアも品質が向上し、機能が一層充実してきています。

アプリケーションの開発能力も育っています。社内でのプロジェクト管理能力も向上しました。

HPの作成では、様々なお客様のお手伝いをすることができました。

## 【他社からの学び】

2016年は、教育訓練の一環としての研修を通じて、他社からの事例に学ぶ点も多々ありました。その内容は都度、品質会議で報告した通りであり、これらは、当社のマネージメントシステムのなかに様々な形で生かされています。

しかし、総じていえることは、他社も苦勞しているということです。教育訓練の実施や、内部コミュニケーションの強化など、なかなか成果に結びつかず、結局は社員の意欲に依存せざるを得ないという話をよく耳にしました。

しかし、人は、何をきっかけに意識が変わるかわかりません。ですから、何かの「気づきの機会」になればという観点が重要であり、そのために継続して教育訓練を実施していこうと考えています。

## 【これからどうするか】

これからの時代をどう生き抜くか。この点に関しての枠組みとなる考え方を見ていこうと思います。

昨年の取り組みで、うまくいかなかったこともあります。目標管理は、社内実施も含め、当初掲げた目標を達成できませんでした。

なぜうまくいかなかったのか。その原因は、目標自体の妥当性とそれを浸透させていくためのトップマネージメントがどうだったのかという点で反省すべき点があったと思います。

当面はまず、逆説的な言い方になりますが、何も変わらないことを前提にするということと考えてみたいと思います。何も変わらないのには理由があります。それは、現状が一番いいと思っているからです。とすれば、これを前提に方針をたてていく必要があります。

目標管理の実施についていうなら、なぜ、目標が達成できないのか、また目標が達成できるのか。それは、本人がそうしたいか否かがポイントになってきます。

とすれば、ビッドシステムの会社としての目標はそれとしておき、個人の目標を信じ、その目標達成を支援することに目標管理のポイントをおくこととしていこうと思います。

とは言え、会社は継続して維持しなくてはならないので、この点は業務管理の改善を行うことで、今年を乗り切っていこうと思います。

### **【2017年の展望】**

2017年は、以前に増して厳しい状況になっていくことが予想されています。こういうときにどうするか。

第1に、内部力量の養成です。個々人の能力アップのために勉強会や各種研修を強化していきます。

第2にソフトウェア製品の品質向上です。これまでの資産を見直し、バージョンアップし、更なるお客様からの要望に応える準備をしなくてはなりません。

第3に販売戦略の強化です。専門の営業部門を持たない当社にとって、自社HPは重要な営業ツールになります。自社HPの更新を日常化し、最新の情報を発信していけるようにします。販売戦略の強化では、これまでのお客様との一層の関係強化も必要です。これはビッドシステムのお客様のほとんどが、紹介によるものであることを考えれば明らかです。

### **【2017年の品質目標】**

#### **1. 5Sから始まる日常の業務管理を改善する。**

まず業務管理の改善を実施します。業務改善の内容としては、プロジェクト報告書の活用と作業報告書の活用、及びISO事務局の役割の強化がポイントになります。

#### **2. プロジェクトの日常管理を改善し、プロジェクト管理能力を高め、各プロジェクトを成功させる。**

プロジェクト報告書は書式を変更しました。ここで、そのプロジェクトの目的、目標、リスク、対策を常に意識し、明確は方針に沿ってプロジェクトを管理できるようにします。

#### **3. 具体的には、プロジェクト報告書での成功事例の達成率を80%以上実現する。**

まずは、プロジェクトを成功させ、終結させることを積み上げ、実践的に自己のマネージメント能力の向上を実現します。

今年は、「次の発展のための準備の年」になります。

まだまだビッドシステムがやるべきことは残っています。

これらのことを実施するにあたり、大変なことも多々あると思いますが、社員のみなさんのご理解とご協力をお願いします。